

令和3年度 自己評価

あんり小規模保育園

2022年3月31日

	評価項目	目標設定の理由	取り組み状況	結果			
				A	B	C	D
1	乳幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境の構成をする	乳幼児の成長にとり、実体験が大切である。その体験が豊かになるためには、乳幼児が見たい・知りたい・やりたいと思える環境構成が必要である。 自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整える。	季節ごと子どもの成長に合わせ室内環境を整えた。併せて玩具も見直し子どもの様子に合わせ変えている。手作り玩具もたくさん工夫し用意できた。(子どもがやってみたいと思うもの、なぜどうしてまで引き出せるように工夫した。)	20.0%	60.0%		20.0%
2	3歳以上児 指導計画は、マンネリ化しないように見直しを行い、幼児の状況の変化に対応する	遊びを通しての総合的な計画を立てる。 長いスパンで繰り広げられる保育を展開する中で、乳幼児の実態を見て、状況にあった充実した保育の展開をしていきたい。	子どもの気持ちに寄り添った保育を心掛け一人一人に合った生活リズムで過ごせるようゆとりある保育を心掛けている。園内研修を通して保育の中で一貫して経験させたいことを1年の中で計画を立て子どもの発達を見ながら展開していくことができた。	50.0%	25.0%		25.0%
	3歳未満児 個別計画が適切に立てられているか						
3	保育の流れや乳幼児のことなど、常に保育者同士話し合い、情報の共有をする。	乳幼児の姿は一人ひとり異なる。また、乳幼児の見せる姿やそのとらえ方は、保育教諭により異なる。保育教諭間意見を交換し、多面的に幼児を捉えることが必要である。	職員の思いが一致していたり、時に違う方向からの見方で保育を考えてみたり、情報を共有し、意見を出し合いながら保育をすることができた。職員も子どもの姿を見ながら育ちあうことができつつある。担任だけでなく園内のすべての職員での情報共有にも務めた。	33.4%	16.6%	50.0%	
4	各自が保育教諭としての良識を大切に、能力を高めるよう努める	保育教諭(士)としてふさわしい態度を身に付けると共に、専門的知識を得る機会に積極的に参加することにより、社会人としてレベルアップを図りたい。	リモートを中心に数多くの研修に参加し、学ぶことができた。また保育をしていて疑問がわいた時にはすぐに調べ、新しい知識を得ることができた。先輩から後輩へと保育士としてふさわしい態度についてアドバイスをすることに努めた。	20.0%	60.0%		20.0%
5	地域や社会とのかかわり	園に求められる社会的ニーズの変化に対応し、地域に根ざす園づくりについて考えていきたい。	コロナ禍ということもあり交流まではできていないが、地域の方々と毎日の散歩の中で散歩や会話などの小さなかかわりは積み重ねている。	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%
6	保護者のニーズの把握に努め要望や苦情に適切に対応できる体制をつくる	乳幼児の育ちの背景にある家庭の姿に迫るためには、さらに保護者との緊密な連携が必要となる。保護者の思いを受け止める体制をつくと共に、乳幼児のより良い育ちに向けて、共に学ぶ姿勢づくりを考える。	年間行事の中で、親子遠足や保護者懇談会年2回を設け保護者の意見を聞いたり子どもの様子を知ってもらう様園として心掛けた。また連絡ノートの活用や迎え時の短時間の対応の中でも連携が取れるように配慮している。面談を希望する保護者に対しては相談に乗るなどしてきた。	40.0%	20.0%	40.0%	
	あんり職員としての意識を持つ	子どもたちに良い保育環境を与えるためには、保育者間の関係性が重要である。社会人として同じ職場で働く者として、自分の役割や心掛けたいことを考える。	挨拶をしっかりしてコミュニケーションをとるよう心掛けている。ワンルームでの生活なのでそれぞれの担当年齢間での申し合わせをし、各個人の役割を意識することで、保育がスムーズにでき、保育者間の人間関係が良好に保てるように配慮している。		75.0%	25.0%	

* 結果の表示方法 A…十分達成されている B…達成されている C…取り組まれているが、成果は十分でない D…取り組みが不十分である